

京都市西京極総合運動公園プール施設 (京都アクアリーナ) 整備事業

受賞機関 京都市建設局水と緑環境部緑政課

はじめに

西京極総合運動公園は、京都市西部の桂川沿いに位置し、京都市を代表する運動公園である。

同公園は、昭和5年に昭和天皇の御成婚を記念して「京都市運動場」として建設に着手してから、順次整備してきたが、2巡目国体「昭和63年京都国体」開催を機に、昭和57年から全面改修を進め、平成元年度に再整備を完了した。プール施設は、同国体の計画を検討した際、既存施設を撤去し、新たに阪急電鉄京都線南側に用地を確保し建設することとし、用地の取得、施設の整備を平成14年7月に完了した。事業の概要

西京極総合運動公園面積：19.1ha
(内プール施設区域3.6ha)
総事業費：350億円(用地費170億円、施設費180億円)
事業期間：昭和61年度～平成14年度
(施設整備 平成11年度～平成14年度)

事業の特徴

プール施設の計画は、施設計画に対する提案を公募型プロポーザル方式によって公募したところ、「自然景観との調和と京都らしさの表現」、「環境への配慮と自然エネルギーの活用」、「周辺環境との一体化と市民の憩い・健康増進の場の形成」、「繰り返し利用できる人にやさしい魅力ある施設」の4つの基本理念に基づいた作品を特定し、基本設計を行い建築物の多くを土で覆い、「緑の丘」として緑化し、緑あふれる施設として整備した。

施設の概要

(1) 主な施設

メインプール棟(50mプール、飛び込みプール、観覧席、レストラン)
ウェルネス棟(25mプール、こどもプール、フィットネスルーム) 駐車場、多目的広場(約1,100m²)
緑の丘(芝生広場約3,000m²)
アーチェリー場(90m×4コース、50m×2コース夜間利用可)

(2) メインプール

国際B級公認(50m) 50×25m 2.5m×10コース



メインプール



サブプール

水深(可動床：0m～3.0m)

飛び込みプール 公認 25×22m 水深5.0m

冬期利用/アイススケートリンクに転換メインプール：
(メインリンク60×30m) 飛び込みプール:(サブリンク 30×18m) 観覧席：約3,000席(固定席2,200席、仮設席約800席)

(3) サブプール

公認(25m) 25×17m 2.0×8コース

水深(可動床：0.5m～3.5m)

冬期利用/温水プールとして通年利用こどもプール
滑り台、水を使った遊具を設置

(4) 駐車場

乗用車等100台(屋内) バス6台(屋外)

駐車場上部が多目的広場等のオープンスペースとなっている

(5) 多目的広場・オープンスペース

建築物等の面積は17,800m²で敷地の約50%を占めていたが、覆土の結果約26,300m²(敷地の約73%)のオープンスペースを確保することができた。

修景施設として使用した樹木は、高木(アラカシ、ヤブツバキ等)23種583本、低木(ヒラドツツジ、アセビ等)23種25,900株、グランドカバー類(芝生、クマガサ等)21種34,300株である。

おわりに

施設費全体と比較するとわずか3%の植栽等の修景施設が、大規模建築物と広場空間を見事に調和させ「緑の丘」を創り出し、プールの日焼けデッキ周辺等には、安らぎと落ち着きの小空間もしつらえている。

西京極総合運動公園は、昭和5年に整備着手し平成14年に終了した。この70有余年の時間は、本市の公園緑地事業の大半を占め、数多くの先輩達が様々な思いで参画された。主な施設は既に「二代目」となり、時代の進歩と市民要望を反映した施設となっている。また、未来のよりよいまちづくりに対する社会的要請は、公園緑地の果たす多様な役割に大いに期待を寄せており、そのことに対してもこの事業は一定の貢献をしてきたものと考えている。



プール施設全景



緑の丘